



第21号

発行 平成22年12月24日

茨城県立図書館

ボランティア協議会広報委員会

文責 上原 富男

かがやき 目次



- 1 いばらき読書フェスティバル2010
- 2 代読サービスボランティア スキルアップ研修会
- 3 児童サービスボランティア近況報告
— さよなら滝平二郎展～県近代美術館イベント参加他～ —
- 4 ボランティア見学会
— 国立国会図書館 東京本館 —
- 5 編集後記

1 いばらき読書フェスティバル2010

『いばらき読書フェスティバル2010』が、読書週間中（10/27～11/9）の10月31日（日）に開催されました。例年のように図書館及び三の丸庁舎広場を利用してのイベントとして企画されましたが、季節はずれの「台風14号」の上陸が予想されたので屋外でのイベントは中止となり、図書館内での行事のみとなりました。



視聴覚ホールは、表彰式などの開会セレモニーにつづいて読み聞かせフォーラム、記念講演会、3階会議室での「本のお医者さん」、おはなししつでの「おはなし会」のほか、館内探検ツアー、ボランティア体験ツ

アーなどに、大勢のボランティアの参加が得られました。これにより、館内のみでの実施となった今回の読書フェスティバルを盛り上げることができました。

2010・第64回 読書週間標語
気がつけば、もう降りる駅。



§ § § 本のお医者さん § § §
= 本の修理体験教室 =

「本のお医者さん」は県立図書館で損傷した図書の修理を行っている、図書修理ボランティアがインストラクターとなり、各家庭などにある壊れた本を持ち込んで、実際の修理を体験してもらう教室です。

修理したい本を持参された方が多く、教室をオープンしてからのインストラクターは休憩なしでの大活躍となりました。

分厚い辞書の修理なども持ち込まれましたので、開講時間中には手におえないものもありました。修理作業が完成するまでには1週間以上待つてもらうことが必要となり、翌週の金曜日（図書修理ボランティアの活動日）に受け取りにきて下さいとの案内をしたケースもありました。

修理体験教室の見学のみでの来場も多く、「次回の教室は、いつごろやりますか？」との質問もあり、図書修理に対しての潜在的ニーズが高いことを再認識しました。



§ § § おはなし会 § § §

今回のおはなし会にも多数の児童サービスボランティアの参加により、フェスティバル開始から終了までの長丁場を、休憩時間を特に設けることなく、フルタイム5時間のロングスパンの出演となりました。

出演前の控えのボランティアの中には、3階ボランティア室で最後のチューニングにジン



ワリと汗を滲ませながら、本邦初演？の上演準備をする人や、「腹が減っては戦にならぬ！」とスタミナ補給をする人など、フレッシュからベテランまで、ボランティアのみなさんの、おはなし会に臨む、心意気が伝わってきました。

予定していた定刻の15:30となり、瞳をこらしている子ども達に、なごりを惜しみながらの終演となりました。



§ § § 記念講演会 § § §

「私の描いた『桜田門外ノ変』—県民の情熱と共に—」



記念講演会は、10月16日に全国一斉公開された、映画『桜田門外ノ変』の監督を務められた、佐藤純彌氏を迎えて視聴覚ホールで行われました。今秋公開された話題の歴史映画であることから、ホールに予め準備しておいた補助椅子も足りなくなり、立ち見で聴講していただくという盛況となりました。

読書フェスティバルでは、この『桜田門外ノ変』に関する講演会としては、今回で3回目となります。一昨年、1回目として、「桜田門外ノ変と水戸—吉村昭の歴史観—」の演題で文芸評論家：川西正明氏の講演と吉村昭氏夫人で作家の津村節子氏の特別挨拶を受けています。2回目としては、昨年「文学作品の描き方—映画『桜田門外ノ変』製作にあたって—」と題して、

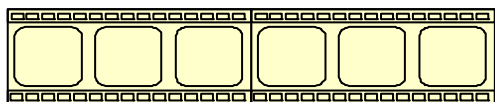
映画『桜田門外ノ変』監督：佐藤純彌氏の講演と、脚本家：江良至氏、茨城新聞社常務：市村眞一氏、『桜田門外ノ変』映画化支援の会事務局長補佐：橘川栄作氏による鼎談を行ってきました。



地元の弘道館、袋田の滝など茨城県から発信した映画『桜田門外ノ変』をまだ鑑賞されていない方は是非映画館に足を！

〔広報 上原 富男〕

桜田門外ノ変



2 代読サービスボランティア スキルアップ研修会

研修会は平成22年11月9日3階会議室にて、県立点字図書館視覚障害生活訓練指導員（歩行訓練士）古川智行氏を講師に迎え開催されました。

主な研修内容として

(1) ロービジョンシュミレーションキットを使用した体験 (2) 屋外手引き実習 (3) 白杖と白杖歩行などであり、ボランティア活動のスキルアップには欠かせない貴重な実体験となりました。

特に、ロービジョンシュミレーションキットを使用した体験では、視覚障がい者には、「見えない」（全盲）ばかりでなく、「見えにくい」（弱視またはロービジョン）とよばれる『見えにくさ』を訴える方達が多くいることを知りました。

この『見えにくさ』を知るための疑似体験を、①「視力0.1と中心暗転」（視力0.1は国際的・法的に視覚障がい者と定義、中心暗転は黄斑部変性症などに見られ、文字処理に影響が出やすい）②「眼前手動と飛斑症」（眼前手動とは知覚はできても認知に至らない程度の見え方）③「網膜剥離」④「視野欠損」⑤「視力0.05」⑥「求心性視野欠損」（トンネルビジョン）⑦「網膜出血」⑧「光覚」の8つのレンズをとおして行い、個々の見え方や障がいも多種多様であることを理解しました。

つづいて、視覚障がい者の誘導法（介助法）について、図書館構内と一般道路上にて2人1組で実体験をしました。2人のうち1人が目隠し、一方が介助者の役割を担うものです。視力を失う模擬体験は想像をはるかに超えた苦渋さでした。

方向感覚を全く失い、動作の緩慢さ、つまずき、下り階段の恐怖感、点字ブロックなしでは正面歩行出来ないことや自動車などとの衝突不安を強く感じました。

不安・恐怖感から思わず介助者の腕を強く握り締めました。狭隘な通路では、介助者の足につまずき転倒しかかりました。



この実体験から、視覚障がい者は、常により正確な情報を耳から得たり、路面の触覚環境から得る必要があることを痛感しました。介助者は、進路上の路面状況などを具体的に伝達し、確認し合うことが重要となります。

私は、これまで視覚障がい者の事柄について学び体験したことがありませんでした。今回のスキルアップ研修は、生涯役立つものと確信しました。



※ 文面が講師テキストベースで、専門語入りのレジュメ的となりましたことをご容赦下さい。

〔代読サービス 矢島 政彦〕



3 児童サービスボランティア近況報告

— さよなら滝平二郎展～県近代美術館イベント参加他～ —

現在私たちの仲間は、茨城県近代美術館で開催中の「さよなら滝平二郎展」の催事、紙芝居の上演でもてる力を存分に発揮しています。

それまでの過程が実にスリリングであり感動的でありました。その概略について記します。

県近代美術館から協力依頼の概要が届いたのは、班長会議開始寸前でした。開催期間は11月3日から翌年の1月10日まで。その間毎週土日、午前午後の2回上演し、演目も滝平二郎の作品4部が指定されていました。更に『欲を言えば毎日』の記述もありました。この長丁場、絶対に穴は空けられない、協力は土日のみとすることで、班長全員が直ちに賛成しました。

主な来館者は成人と予想されますので「県立図書館児童サービスボランティアとして恥じないレベルをもって臨もう」ということで一致しました。

しかし、期間中の土日は9週、18日、36回の上演となり、人員は1日4人で延べ72名の投入が必要となります。仲間たちの賛同は得られるのか？各班長は不安を胸に散会しました。

指定された紙芝居は、貸し出しが決まると手元にはありません。展覧会開催の16日前に、練習用に使う縮小版原本が入手できました。さあ下読みが開始できます。

今回の班長会議は、11日前の10月24日でした。この日各班に練習用の縮小版コピーを2部ずつ手渡すことができました。



会議の終了時刻が迫っていました。「この白紙の担当表が埋まるのか？」「相当にてこずるだろうな」との心配をよそに、何とみるみる埋まっていくではありませんか！その間の時間は僅か25分！見事でした。

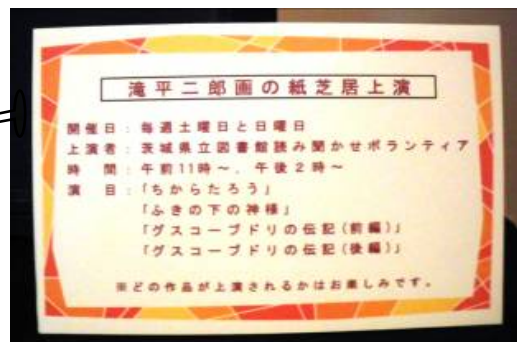
こうして現場で実物の紙芝居を手にした仲間たちは、現在生き生きと活動しています。観客の入りも上々と聞いています。

来年、松が明けた頃に終了となります。どのようなご批評を賜るか、緊張感をもちながら、その日を待つことにしましょう。



この他に、那珂市立図書館、日立市立十王図書館からも研修会講師等の依頼があり、ボランティア全員で張り切っています。

〔児童サービス 根岸 登志子〕





4 ボランティア見学会

— 国立国会図書館 東京本館 —



昨年と同様「国立国会図書館 東京本館」を見学しました。前回、参加希望者が多く抽選漏れとなったボランティアから、再度実施の要望もあり、同一場所に総勢33名で見学しました。

常磐道は順調でしたが、首都高は予想どおり低速であり、建設中の「スカイツリー」が十分に見えたことがラッキーでした。尖閣列島問題もあり国会周辺の道路規制等が心配されましたが、予定を大幅に遅延せずに国会図書館に到着できました。

国会議事堂などに邪魔にならぬよう、地上4階/地下8階（地下は地上の倍でありその全てが書庫）の新館の構造にはビックリでした。地下の中庭から、上を見上げると、茨城県庁のアトリウムのように、「地下にいることを感じさせないような中庭風」がデザイナーの目的とか、それでも地下生活？は精神的には考えものだなあと

感じ、早く地上へと思ったのが正直な気持ちでした。



国内で発刊された総ての出版物が、国会図書館には保存されると聞いて、またビックリでした。さすがに「国会図書館はすごい図書館なんですねー」「国内では国会図書館が最上位でその上は無いですから」百聞は一見にしかず、感心した一日でした。

帰りぎわ、国会図書館のとなりで化粧直し中のために「角隠し？」をした珍しい姿の国会議事堂を見ることができました。これはトピックでした。

〔広報 上原 富男〕

— ◆ — ◆ — 編集後記 — ◆ — ◆ —



季節はずれの台風接近があり、「いばらき読書フェスティバル2010」が秋晴れのもとでの実施ができず残念でしたが、館内のみであっても、盛況のうちに終了することができました。ボランティアの積極的な活動が、図書館行事を充実させる源になっていることを強く感じました。次回も積極的な参加をお願いします。

読書フェスティバルで好演していた評判が、千波湖を渡って県近代美術館にまで届いたのででしょうか、児童サービスの皆さんが『さよなら滝平二郎—はるかなるふるさとへ—』の美術館企画展で、毎週土日にアートフォーラムに「特別出演」することとなりました。県外からも、「さよなら滝平二郎展」鑑賞のお客さんが、大勢あると聞いています。茨城県民を代表してのボランティアとして、ご尽力下さい。茨城県のイメージアップを！お正月には県近代美術館に出掛け、仲間たちの熱演に激励をお願いします。

茨城県の魅力度アップを狙って映画製作した『桜田門外ノ変』も、公開して2ヶ月過ぎました。都道府県別魅力度順位が40数番といわれている本県のランクが、一番でも上位になって欲しいものです。

本年一年間は「国民読書年」としての国民的運動期間でした。来年は運動期間としては終了ですが、読書推進活動は永遠のテーマです。2011年も、『夢と希望』で元気にボランティア活動をしましょう。よろしくをお願いします。

〔広報 上原 富男〕

